

こもれびの森 通信 9 月号

2017

発行

宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330

http://mifi.main.jp/komorebi.htm



イベント報告 -ウッドランドクラブ8・9月-

～「川遊びと夏休みの工作を楽しもう」～

8月のウッドランドクラブは、夏休みの子供たちをメインとしたイベントでした。「川遊び」では放流したイワナを捕まえて、塩焼きにして食べました。魚嫌いな子供も自分で捕まえたイワナは別のようです。「工作」は海での大漁をイメージした楽しい作品が出来上がりました。これで夏休みの宿題も完成ということで、一安心という子供さんも多かったのではないのでしょうか。



＜スイカのおやつ＞

～「森林ヨガを楽しみましょう」～

9月17日(日)、「ヨガ」を楽しむイベントを開催しました。科学館としては初めて挑戦するイベントでした。室内ではなく、外で自然を感じながらヨガを体験するというものです。外は澄み切った空気と草木川の流れる音があり、参加者は充実した時間を過ごせたようです。健康ブームということもあり、今後も継続して開催したいと思います。



＜体を伸ばしま〜す!!＞

こもれびの森の 夏のチョウ



暑い夏の日の昼さがり。どこからともなく花を求めてチョウが飛んできました。お目当ては「アザミ」の花のようです。のんびりした昼食の時間でした・・・



＜①イチモンジセセリ＞



＜②キタキチョウ＞



＜③ギンボンシヨウモン＞



＜④モンシロチョウ＞

生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さんのコーナー

小さな珍客

科学館の庭には3本のヤナギがある。いずれの木も虫たちにとっては宝の木であり人気者になっている。今年の夏も様々な虫たちが訪れた。8月14日、2匹のヒラタクワガタが樹液を吸っていた。カブトムシやカミキリは普通に見られるがこのヤナギにとっては、ヒラタクワガタは珍客だ。体長は2cm程で一緒にいるムネアカオオアリと変わらない大きさである。カメラのレンズ越しに「アリに負けるなよ!」と声をかけた。(は)



＜アリに負けるな!!＞



＜ヒラタクワガタ＞

まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

～異名の多さが日本一 ...「ヒガンバナ」(ヒガンバナ科)～

お彼岸の時節となりました。「ヒガンバナ」は稲作とともに中国から持ち込まれたとされ、種子ができないため株のみで増え、このため日本のヒガンバナはすべて同一の遺伝子をもつという説があります。別名の「曼珠沙華」(マンジュシャゲ/マンジュシャカ)は、仏教に由来する名で「天界の花・吉事の兆しの花」を意味します。その一方で、「死人花」「地獄花」「しびれ花」「幽霊花」・・・等の暗い異名が多く、天界の花との間に大きなギャップがあります。

ヒガンバナは、田んぼの畦やお墓によく植えられています。それは有毒な球根により、小動物を寄りつかせないためといわれます。また、球根にはテンブンが含まれているため、かつては救荒植物として利用されていて、飢饉の際の最後の食糧として毒を抜いた球根が食べられていたようです。生きるか死ぬかの究極の食糧ということでしょうか。異名や方言の多くは、このような暗いイメージからついたと考えられます。秋になると地面からいきなり茎だけが伸びて、葉もなく咲く姿はそれだけでも不思議な花のようです・・・(千葉)



＜ヒガンバナ花＞

科学館情報

パッチワーク展開催中

科学館では毎年、「パッチワークに挑戦」のイベントに合わせて、パッチワーク展を開催しています。作品はイベントの講師でもある佐藤タキ子先生の制作によるものです。壁一面を覆うような大きなものからバックやポーチまであります。パッチワーク作りは10月1日(日)ですが、参加者募集中です。関心のある方は是非ご覧下さい。



＜パッチワーク展＞